

テーマ 自身の強みを活かし 自分の未来を描く 学悠館

本年度の目指す生徒の姿

- 夢や希望を抱いて未来を描き、その実現にチャレンジする生徒
- 自分の能力に気づき、主体的・自律的な学びに真摯に取り組む生徒
- 多様な価値観を尊重して他者と協同し、共に成長する生徒

取組の視点

- よりよく生きるための基盤となる健やかな心と身体を育てる。
- 生徒の強みや可能性を引き出し、主体的・自律的な行動につなげる。
- 仲間との信頼関係を築き、協力できる豊かな感性を育てる。
- 生徒の実態に即して、各教育活動を体系的に実施する。

努力点	学校自己評価					学校関係者評価
	本年度の具体的方策	評価指標	評価結果		次年度以降への改善策	
安全・安心な 学校生活の提供	スクールカウンセラーと連携し、教員間の共通理解を深めた上で、生徒の実態に即した適切な指導を行う。	連携・共通理解を通して、生徒の実態に即した適切な指導ができた割合（本校の教育活動に関するアンケート[教職員]） 70%以上・A 50%以上・B 50%未満・C	A 教員100%	A	生徒の実態をより詳細に把握するために、「生活と学習の記録」の活用を促進する。	SCとの連携・教員間の情報共有を通して「チーム支援」の体制が確立されている。さらに、工夫を施し、安心して学校生活を送れる環境づくりに取り組んでほしい。
主体的・対話的な深い学びの研究と実践	「学習状況確認表」の記入の仕方をSHRや懇談で指導し、継続的に活用させる。	「学習状況確認表」を活用できた生徒の割合（生徒アンケート） 70%以上・A 50%以上・B 50%未満・C 〔昨年度：B・概ねできた〕	A 生徒80%	A	主体的に学習に取り組む態度を育むために、「学習状況確認表」と「学習状況通知」を共通様式に改め、活用の利便性を高める。生徒が主体的にICT機器を活用できるようにするため、教員の指導力の向上を目指す。また、生徒への支援法を構築していく。	「主体的・対話的な深い学び」を推進するにあたっては、校内研修、情報の収集と共有に努め、より具体的な改善策を講じると良い。特に、「生徒自身が『学び』によって自身の変容を実感できる」ような取組を行ってほしい。また、実践的な教員研修を通し、生徒が主体的にICT機器を活用できるようにするため、教員の指導力のさらなる向上も目指してほしい。
	ICT機器を活用した面接指導を実施する。	教科指導担当教員（24名）のうち、ICTを活用した面接指導ができた教員の割合（実態調査[教職員]） 70%以上・A 50%以上・B 50%未満・C	A 教員96%			
キャリア発達・進路実現を促す活動	生徒の発達段階に応じたキャリア教育を計画・実施し、生徒自身の強みや可能性を気づかせる。	キャリア教育を通して強みや可能性に気づくことができた生徒の割合（生徒アンケート） 70%以上・A 50%以上・B 50%未満・C	A 生徒96%	A	生徒が1年次から具体的な進路目標を設定できるよう、LHR等の内容を検討していく。同時に、進路行事を充実することで、生徒の進路意識を高められるようにする。	着実に進路実績を伸ばしていることがうかがえる。計画的・継続的に、生徒の実態に応じた指導の取組が展開されているからであろう。生徒一人ひとりの特長を把握し、その強みを伸ばして進路実現をいっそう図ってほしい。さらに、具体的な情報の提供を通して、生徒に目標の設定、取り組み方の見通しを持たせると良い。主体性を持った選択を促し、得意・不得意や適性、自身の強みを把握させる。このような進路指導をこれからも続けてほしい。
	進路意識を向上させるために、校内における進路行事やLHRの参加人数を増やす。	進路行事やLHRに参加した生徒の割合（昨年度比） 10%以上増加・A 10%未満の増減（ほぼ同じ）・B 10%以上減少・C 〔昨年度：52%〕	B 生徒48%			
	進学希望者に対して大学や専門学校のオープンキャンパスへの参加を促す。	オープンキャンパス（含・リモート）に参加した進学希望者（卒年次生）の割合 90%以上・A 70%以上・B 70%未満・C	A 生徒100%			
開かれた学校、地域との連携・協働	学報、ホームページ、電話連絡、懇談などを通して保護者に適切に学校情報を提供する。	学校情報が適切に提供されたと回答した保護者の割合（本校の教育活動に関するアンケート[保護者]） 70%以上・A 50%以上・B 50%未満・C	A 保護者100%	A	保護者の必要とする情報を提供するだけでなく、双方向の情報交換ができるようにする。学報やHPを活用することで、社会経験の浅い生徒へ情報を適切に提供できるよう工夫する。	積極的に学校情報の発信が行われている。今後、保護者と双方向の情報交換を試み、アンケートの回収率の向上を図ると良い。一方、体験活動を伴って外部人材から指導を受ける機会や、社会的経験の補完に有効である。さらに、あらゆる機会を捉えて生徒に情報提供してほしい。
	外部講師を招いて講話や体験活動を行い、社会生活における生徒自身の役割の発見や模索に資する。	自身の役割の発見や模索について、その意識が高まったと答えた生徒の割合（生徒アンケート） 70%以上・A 50%以上・B 50%未満・C	A 生徒94%			
心身の健やかな成長	体育のスクーリングや体育的行事でラジオ体操を指導し、健康に対する関心を高める。	健康への関心が高まった生徒の割合（生徒アンケート） 90%以上・A 70%以上・B 70%未満・C 〔昨年度：80.7%（一部改変）〕	B 生徒80%	B	面接指導だけでなく、体育的行事においても、全教員で健康に関する声かけをしていく。	ラジオ体操をベースにした「自校体操」の創作、生徒の提案によるエクササイズの導入なども考えられる。さらに、工夫を凝らし、心身の健やかな成長を促してほしい。
豊かな人間性・社会性の育成	内部・外部の人的資源を積極的に活用する。	人的資源の活用（のべ人数） 16人以上・A 10～15人・B 10人未満・C 〔昨年度：のべ15人〕	B のべ14人	B	行事等において、社会経験の浅い生徒へ適切な情報を提供する。クリーン運動では、今年度も多人数の生徒が参加した。さらに、人数が増えるような方策を講じる。	人的資源の活用を通して組織的にサポートしていることがうかがえる。協働することを通して、対人面での自信や社会的なスキルを身につけていける。学校行事などを実施する際には、活動の意義を確認するとともに、生徒への動機付けなどを工夫すると良い。より多くの生徒に協働できた喜びを実感させてほしい。
	生徒がクリーン運動や生徒活動時間に主体的に参加し、コミュニケーションを図りながら協働できるように支援する。	複数の活動に主体的に参加し、コミュニケーションを図りながら協働できた生徒の割合（生徒アンケート） 90%以上・A 70%以上・B 70%未満・C 〔昨年度：92.2%（一部改変）〕	A 生徒100%			